

Dom/Sub りりり

【概要】

Dom/Sub ユニバースのエロ漫画とかをめっちゃ読んでたヒロインが、ひよんなことから自分に執着する男にそれがバレてしまい「こういうのが好きなんだよねっ」と無理やり Dom/Sub なりきりプレイとして命令したり強要されたりする。

いわゆるヤバいイケメンに目をつけられて、合意のないごっこプレイを強要されるやつです。

【Dom/Sub ユニバースについて】

海外二次創作発祥の世界観で「人間には Dominant (Dom 支配者の意味) と Submissive (Sub 被支配者の意味) という第二の性別があり、Dom は Sub を支配したいし、Sub は Dom に適切に支配されている状態が幸せ」というもの。

Dom は Sub に命令 (コマンド) を出すことができ、Sub は決して逆らえないしそれで気持ち良くなったりもする。

【ストーリー】

二次元が大好きなヒロインには、数年来の仲良しフォロワー (百足) が居た。

ある日百足に懇願されて、ヒロインの過激なエロ妄想を綴る鍵垢の中に、彼を通したところ「好きな女がすげーインモラルなエロ妄想を楽しんでる！彼女はこのいうのが好きなんだ！」と確信されてしまう。

間違った確信のもと、百足はヒロインのお気に入りエロ妄想を再現すべく彼女を監禁し Dom/Sub 再現陵辱をする。

【補足】

《ヒロインたちの推しアニメ》

マジカルプリズナー☆カイ 略してプリカイ

架空都市にある監獄に収監されている『獺国百戒 (だつこくひゃっかい)』が、看守の目を欺いてシャバに出る魔物を魔法囚人カイとして対峙するアニメ。

看守とカイのカップリング、そして隣の牢名主とのカップリングが人気。

1 【キャラ設定】

2 《百足 和也（ももたり かずや）》

3 ヒロインのネットの通話友達。Eはセンチ。

4 ネットで意気投合したヒロインのことが好きで、ヒロインの好きなキャラに
5 寄せた人格（面倒見のいい乙女向けフレンドリーお兄さん）を演じていた。

6 ヒロインの個人情報には既に調べ上げ済みで、あとはヒロインの持つ鍵垢の中
7 を確認しておきたかった。

8 土地転がしや株取引などで既にたっぷりと資産があり、もう遊んで暮らせる
9 くらい暇。

10 なのでいつでもヒロインとの通話ができるしチャットとかもレスが早い。

11 本来的には身勝手で独善的。

12 他人を支配することに何の疑問もなく、その能力があるのだからしてもいい
13 と信じている。

14 相手（ヒロイン）が最終的に手に入るならなんでもよく、全然嘘とかもつ
15 く。

16 《主人公（ヒロイン）》

17 ハンドルネームは囚人七番。親しい人からはナナちゃんと呼ばれがち。

18 全年齢向け、成年向けあらゆるジャンルの創作を愛する雑食女性。

19 全年齢向けジャンルで百足（センチさん）と仲良くなり、最近は通話とかも
20 してる。

21 フィクションとしての Dom/Sub ユニバースが大好きで、職場でも休憩時間に
22 同人作品を堪能するほどだったが、自分自身の肉欲については至って平凡。

トラック① 愛と正気は無限大

ヒロインはここ最近、毎日のようにセンチさん（百足）と通話をしていた。
このトラックでもいつものように夜通話を始める。

二人には共通してハマっているアニメがあり、二人で萌え語りをするが途中から「ヒロインはこんなにこのアニメにハマってるのに、SNSではあんまり語らないよね。他に萌え語り用のアカウント持ってたりする？」という詰問に移行し、ヒロインが成年向け鍵アカウントを持っていることを突き止められてしまう。

ヒロインがどんな性癖でも、ヒロインとの萌え語りが好きだから受け入れる、鍵垢にも入れてほしいと百足に押し切られ、渋々通してしまう。

鍵垢の中で、ヒロインは推しの Dom/Sub パロで盛り上がっていた。

何これ？ になる百足に説明する形で、Dom/Sub について軽く説明する。

ふーん、よくわかんないけど、ヒロインが好きなら勉強してみるよ！ と通話終了。

【プリカイ放映後、いつものように百足がヒロインに萌え語り通話をかけてくる】

SE:通話呼び出し音

SE:応答音（ボンみたいなやつ）

※ヒロインがスマホの SNS アプリで通話している想定で
音声を若干それっぽく加工できますでしょうか

【1 テンション高く、いかにもアニメを楽しんだ感じで】

百足「あ、繋がった？

ああー（高まり）！ 今週のプリカイも良かったねえ！

カイの正体バレ展開熱すぎ！

今までで一番のピンチだったんじゃない!!

俺ほんとにドキドキして、エンディング中も早くナナさんに

通話かけたくてウズウズしてた。

ナナさん余韻も大事にするタイプだから、我慢したんだけどさ」

【ヒロイン「よくわかってるね」】

1 百足「当然でしょ！」

2 もう何年フオロワーやってると思ってるの？

3 前のジャンルも、前の前のジャンルも、一緒に渡り歩いてきたじゃん」

4
5 【ヒロイン「そうだね」】

6
7 百足「最初の頃はお互い、ハンドルネームフルで呼び合ってたさ。

8 囚人七番さんゝなんて、今思うとその方が失礼じゃない？

9 ナナさんも俺のこと、わざわざセンチピードさんって呼んで、

10 めちゃくちゃ噛んでたの覚えてるわ。

11 言いにくいなら略せばいいのに、律儀な人だなんて思ってた」

12
13 【ヒロイン「懐かしいな」】

14
15 百足「ね！ ってか最近ナナさんのアカウント、低浮上じゃない？

16 前だったら放映後には必ず、小一時間くらい眩き続けてたのに」

17
18 【ヒロイン「そうだったけ？」】

19
20 百足「そうだった。俺、ナナさんの感想見るの、いつも楽しみにしてた。

21 それで……もしかしてなんだけどs

22 ナナさん、俺に内緒にしてるアカウントとか、ある？

23 そこでアニメの感想とか、眩いてたり、する？」

24
25 【※百足はすでにヒロインの裏垢の存在を把握しているが、本人から教えても
26 らいたい】

27
28 【ヒロイン「な、ないよそんなもの」】

29
30 百足「嘘だあ！

31 ナナさんが推しを30分も画面で浴びて、無言で居れる訳ないって！

32 絶対どこかで吐き出してね！」

33
34
35
36

1 【自信なさげに】

2 百足「考えたくないけど……俺、ナナさんになんか無神経なことした？

3 だから、俺の前で感想呟くの嫌になっちゃった？

4 だったらごめん、謝るし、指摘してもらえたら直すよ！

5 なんでも言って！

6 こんなに仲良くなったネットの友達って初めてだから、

7 加減とかわかんなくて……俺、ナナさんとはずっと仲良くしてたいし、

8 悪いところあったらちゃんと教えてほしいーなんて、キモい？

9 キモいかな？」

10
11 【ヒロイン慌てて否定「確かに鍵垢は持つてるけど、ナナさんのせいとかじゃ
12 なくて」】
13

14 百足「やっぱり、鍵アカあるんだ。

15 俺にも教えてよ！

16 だって、ナナさんだけ俺のアカウント全部知ってて、ずるくない？

17 お願い！

18 今更、ナナさんがどんな独特なアカウントやってても引かないから！」

19
20 【ヒロイン、渋々アカウントのIDを教える】
21

22 SE:タイピング音
23

24 百足「やった……！ へえ……これがナナさんの鍵アカ？

25 えーっと、フォローは……

26 大森おかわりさん、揚げ芋ムッシュさん、

27 午前2時だぞ@原稿中さん……

28 これ、名前はちよっと違うけど、ナナさんのいつものフォロー？」
29

30 【ヒロイン「よくわかるね」】
31

32 百足「そりゃわかるよ。

33 ナナさんがよくメンションしてる人たちだから、俺も覚えちゃった。

34 それで、このアカウントの中身は何？

35 俺を差し置いて、この人たちだけがナナさんの萌え語り読んでの？」
36

1 【ヒロイン「男友達にはちょっと見せづらいつていうか」】

2
3 百足「約束する、絶対引かない。」

4 だから、鍵垢もフォローさせて！

5 もちろん言いふらしたりしないし、

6 ナナさんのいないタイムラインなんか、

7 俺にとっては酸素のない水槽と一緒になんだよ。

8 俺の命を助けると思っ、一回だけチャンスちようだい？

9 やってみて居心地悪かったら、ブロックしていいから」

10
11 【ヒロイン、そこまで言うならと渋々了承】

12
13 【超うれしそうに】

14 百足「ありがとう！

15 はい、申請送ったので承認ヨロです。

16 ん、入れた」

17
18 【ヒロインの鍵垢の中身をざっと確認する百足】

19
20 百足「わり、めっちゃプリカイのこと投稿してる。

21 うわ、俺と通話してる間にもめっちゃ呟いてるね。

22 すっごい萌えてるじゃん、今まで渡ってきたジャンルの中で、

23 一番くらい萌え転がってない？」

24
25 百足「いや、わかるよ。

26 プリカイってストーリーもいいけどキャラの良さがすごくて、

27 しかも毎週急展開だから、

28 こんな情緒めちやくちやになっちゃーあれ、これ……」

29
30 【スクロール途中で、ヒロインがえっちな漫画をリポストしているのを発見す

31 る】

32
33 百足「……何これ……エッロ……

34 プリカイの……なんて読むんだこれ」

35
36 【ヒロイン「ドムサブ (Dom/Sub)」】

1 百足「ドムサブパロ？ 知らないやつだな、そんな作品あったっけ？」

2
3
4 【ヒロイン「海外二次創作発祥の世界観で……」】

5 百足「えーと、つまり特定の作品のパロではない感じ？

6 おお……スクロールしてもスクロールしても、

7 ナナさんのリポストしたドムサブパロが出てくる……

8 本当に好きなんだ」

9
10 百足「ナナさんが好きってことは、俺も絶対好き。

11 教えてくれてありがと、あとでちよっと調べてみる。

12 もし良かったら、ナナさんのおすすめ同人誌教えて」

13
14
15 【ヒロイン「いいよ」】

16 百足「やったー！ さすがナナさん！ 大好き！

17 ……あ、もうこんな時間か。

18 明日も仕事だよね。

19 まだまだ語り足りないけど、今日はこのくらいにしとこっか」

20 百足「鍵垢、教えてくれてありがとう。

21 今度、読んだドムサブの感想も言うわ。

22 おやすみ、またね」

23
24
25
26 SE:通話終了（ぽん みたいな電子音）

トラック② 三千万年から用意してるの

通話でオフ会の約束をする回。

Dom/Subにすっかりハマった百足は、二人の推しアニメにそっくりなスタジオでオフ会をしようと提案する。

場所は、都内某所の監獄風スタジオ。コスプレイヤーなどが使うらしい。

鍵垢の仲間たち（既に百足が買収しており、全員中身は百足）の大半も快く賛成してくれたので、催行決定。

この後行われるプレイについて、ここで触れておく。

・Subが本意でないのにDomにコマンドを出されて無理やりされるの激アツ

・絶望で心が壊れちゃって、Domに縋るしかなかったSub萌えー

・監禁されて、世間に少しずつ忘れられていくSub可哀想かわいいね

・必死で抵抗するSubに、Domが躰を施して従順になっちゃうSubっていいよね

SE:通話呼び出し音

SE:応答音（ボンみたいなやつ）

【1 スピーカーから 興奮を抑えた感じ】

百足「……読んだよ、ナナさんが教えてくれた、

プリカイ Dom/Sub 監禁。パロの同人誌……っ」

【ほんのり早口で】

百足「いや本当に描いた人天才すぎる。

プリカイってそもそも看守と囚人の物語で、

主従っていうの？ そういう関係性萌えが

強めの作品なわけじゃん。

そこに Dom/Sub のパロを入れ込むことで、

看守がカイを自分だけのものにしたくて、

秘密の部屋に監禁する展開とかさ、めちゃくちゃ自然で感動した。

監禁されたカイは逃げ出したいのに、

自分がSubで看守がDomなせいで、どんどん調教されちゃって、

最後には自分でおねだりするようになるまで躰けられちゃう感じとか、

【かみしめて】あゝ……美味し……っ」

1 百足「定番ものを高クオリティでじっくりねっちり描写してもらえて……
2 ありがたすぎる。」

3 監禁された後のカイが、自分が世間からわすれ去られた事実
4 耐えられなくて病んじやう描写とか、
5 可哀想だけどもめっちゃ可愛いんだよね。
6 コマンド出されてイヤイヤ従ってる時の顔も、
7 本気で嫌そうなのが良いんだよね。ラストが引き立って」

8
9 百足「監禁部屋は元の独房よりずっといい部屋なんだけど、
10 誇り高いカイはそんなのより独房にいた方がマシだって、
11 何回も脱出しようとして。
12 失敗するたびにすげえつちなお仕置きされちゃってさ。」

13
14 百足「自分はご主人様に愛される以外、
15 出来ることはないんだってわからされるんだよね。
16 最終的には絶望で心が壊れて、
17 従順なSubとして Dom に懐いちゃうのもかゝわいいんだほんと」

18
19 百足「たった一人のご主人様に可愛がられて、
20 おうちの中で頭の中も体の中も、ずーっとご主人様でいっぱい
21 これ以上のハッピーエンドって……ない！」

22 【ヒロイン「うんうん」】

23
24 百足「あ、そうだ。
25 同人誌読んでたら高まりすぎて、いろいろ調べてただけどさ、
26 ちょっと見てこの写真」

27 SE:ｼﾝﾁﾎﾟ…系のファイル着信音

28
29
30 百足「最近できたコスプレイヤー向けの貸切スタジオらしいんだけど、
31 プリカイっぽさが凄くない？
32 今なら開店クーポンがあるから、人数で割れば安くなりそうだし、
33 鍵アカのみんなでおフ会とかどう？」

34 【ヒロイン「うん」】

1 百足「え？ まさかの難色……」

2 いやごめん。実はもう結構声かけちゃっててさ。

3 地方だから来れない人を除いて……

4 八人くらいが参加希望なのね。

5 みんな俺が男でも会うの気にしないって言ってくれててさ」

6
7
8 【ヒロイン、他のフォロワーたちも来るのなら…とオフ会を了承】

9
10 百足「やった！ 絶対みんな喜ぶわ。

11 グッズ持ち寄って、いっぱい撮影しようよ。

12 楽しみだなー！

13 何気に、俺たちが会うのも初めてじゃない？

14 ずっと声と文字だけだったじゃん。

15 ちよっとドキドキしてきたな……

16 あのさ、俺ちよつと背、高いけどビビらないでね。

17 人畜無害なおタクだから、そのところよろしくお願いします」

18
19 【ウキウキ】

20 百足「日程とか参加費とか、

21 後でまとめてテキストで送るね。

22 ほんと楽しみにしてるから、

23 風邪とか引かないように、早く寝ちゃって。

24 また明日、みんなでおフ会のすり合わせしよう。お休みー！」

25
26 SE:通話終了（へぽん みたいな電子音）

27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
トラック③ そうさ君さ間違いないさ

1 現地集合で、スタジオを訪れたヒロインだったが、そこには初対面の男（百
2 足）しか待っていなかった。
3 あれ？ みんなは？ と戸惑うヒロインに、「半分は、来れなくなっちゃっ
4 て、もう半分の人たちは電車の遅延で遅刻みたいだね」と残念そうに首を振る
5 百足。
6 これまでに萌え語りした信頼関係のおかげで、逃げる判断が遅れるヒロイン。
7 スタジオが自分たちのハマっているアニメの雰囲気とすごく似てるねみたい
8 話が始まってしまう。
9 ほら特にこの拘束具なんて、あの神絵師さんが描いていたDom/Subパロで使われ
10 てたやつみたいじゃない？ どう？ 試しにちよつと使ってみる？
11 なんかヤバイやつじゃん！ と震え上がるヒロインを見て、「あれ？ これじ
12 やないか」「もうちよつと（ヒロインの推しに寄せた自分に）仕上げないと…
13 …」みたいな雰囲気で穏やかにヒロインをリリースする百足。
14

15 【オフ会集合場所である、スタジオに到着するヒロイン】
16

17 SEヒロインの：足音

18 SE：ドア開閉（鉄の扉ギイバタン）
19

20 【スタジオですすでに百足が待っており、ヒロインが到着すると足早に近づい
21 いく】
22

23 SE：ヒロイン向かって近づいてくる足音
24

25 【6→1 ヒロインと会えて嬉しい】
26

27 百足「あ、ナナさん！ 待ってたよ！
28

29 俺、センチです。センチピード！」
30

31 【一拍おき、ヒロインをじっくり眺め】
32

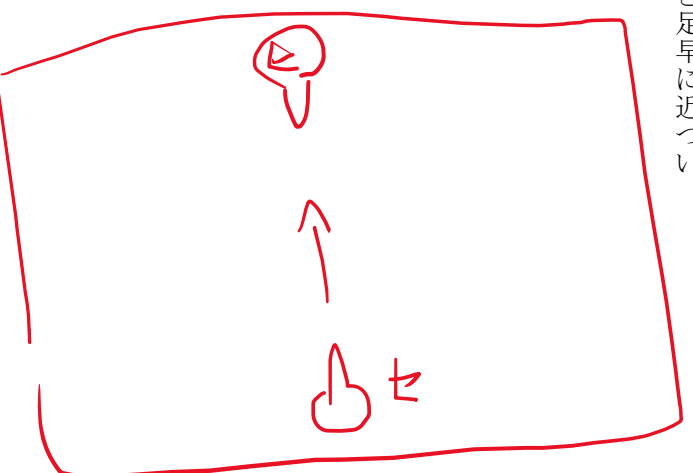
33 百足「……ほんとにナナさんだ。
34

35 生でみるナナさんも、すっごく可愛い……」
36

【ヒロイン「……他のみんなは？」】

【1】

百足「他の人たち？」



1 ドンドンどんつき宝廷さんとポイさんは電車の遅延。
2 鯛のぼりさんは発熱。
3 コボボックルさんは今起きたらしくて、
4 大森さんと揚げ芋さんは二人で迷子だって」

【ヒロイン「じゃあ、私たち二人だけ？」】

百足「そうだね。時間通りに来れたのは、ナナさんだけ。
ごめんね、お迎えが俺みたいなむさくるしい男一人で」

【ヒロイン「いや、そんなことは……」】

【ほっとして】

百足「そう言ってくれると助かる。
みんなが来るまで、軽く見学始めちゃおうよ。
時間通りに来た人間の特権、ってことだし」

SE:肯定の衣擦れ

SE:足音二人分（コンクリ床）

【11 ヒロインの横を歩きながら】

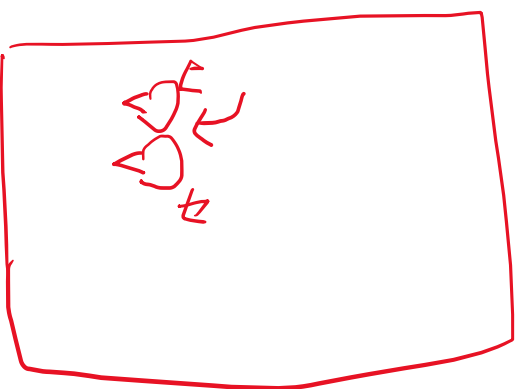
百足「ふうくん。写真で見るとより凝ってるなあ。
檻の素材もちゃんと鉄だし。
本物の監獄もこんな感じなのかな」

【ヒロイン「キャラクターたちもこんなところに居たのかな」】

百足「俺だったらこんなところに、
好きな人を監禁なんてできないな。
もっと清潔で暖かい部屋で、大事に大事に囲うと思う。
……ナナさんのお気に入りの本みたいに」

【11→6】

百足【突然明るく】あ、この檻！」



【百足、ヒロインに先んじて数歩走って進み、ヒロインに振り向く】

SE:走り出す

【9 ヒロインを見て】

百足「カイがいつも捕まってる独房みたいじゃない？
入ってみようよ」

【百足が独房の扉を開ける】

SE:鉄扉開く

百足「おさきにどうぞ」

【ヒロイン、百足の順で入る】

SE:足音×2

SE:鉄扉閉じる

【5】

百足「ああ、一人用だから、二人で入ると結構狭いね。」

【背後から6に】大丈夫？ 動ける？」

【ヒロイン、驚いて振り向く】

SE:衣擦れ

【1】

百足「あ、ごめん。耳、くすぐったかった？

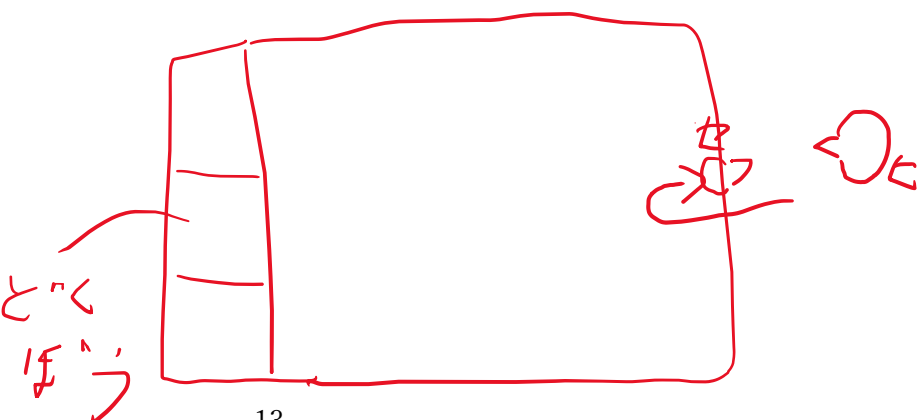
こんな狭いところで、

カイは看守に犯されちゃったんだ……

コマンド出されて、逆らえなくなっちゃって……」

【7の耳元】

百足「嫌だ嫌だって拒否してるのに、



ストップって言われて、動けなくなっ

SE:衣擦れ

【百足がヒロインのシャツの中に手を入れて腰を触る】

【7】

百足「こんなふうに、無理やり服の中に手を入れて……

気持ち是最悪なのに、Subの体は喜んじやって……

【息をふきかける】ふー」

SE:ヒロインの衣擦れ

百足「ふふ……息、くすぐったかった？

ねえ、よかったら試してみない？

Dom/Sub「うん」

【ヒロイン、怯えて百足を突き飛ばす】

SE:衣擦れ

SE:突き飛ばす

【1】

百足「おっと……！ 【拍子抜けして】あれ？ 違った？

おかしいな、絶対こういうシチュエーションだと思ったのに」

【百足、ヒロインから思ってた反応がなかったので、仕切り直すことに決めて一旦引く】

百足【ケロツと】あーあー、真っ青だ。

ごめんごめん！

ナナさんと萌えを共有したくて、ついやりすぎちゃった」

【6 ヒロインができる限り百足と距離をとっているため】

百足「でもこれじゃなかったんだね、ナナさんには

俺、まだまだ君のこと分かってなかったみたい。

1 もう一回考え直すよ。
2 えーと……ああ、俺がここに立ってたら出られないか」
3
4
5

SE: 一歩横に歩く

【6】
百足「ほら、行っていよいよ。」
9

SE: ヒロインの駆け出す足音。
10

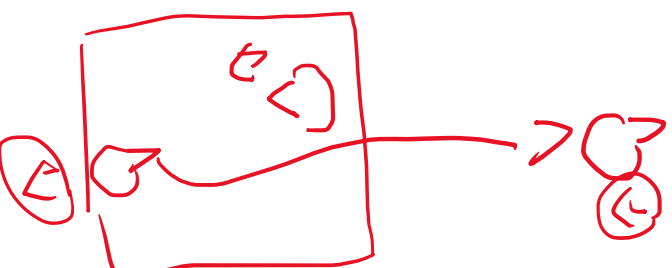
【10】
百足「鍵は普通に開いてるし
13 ナナさんはちゃんとお家に帰れるから、心配しないで」
14
15

SE: 鉄扉ボタン（可能なら前回より激しい音をお願いします）
16

SE: 足音（ダッシユ）
17

【13 去り行くヒロインの背中に声をかける】
百足「じゃあねナナさん、気をつけて。
20 また明日〜」
21
22

SE: 足音フェードアウト
23
24



1 トラック④ 大体で絵に描いた餅

2 百足がヒロインの家に襲撃。
3 家で過ごしていたヒロインの元に、親しいフォロワーから電話がかかってく
4 る。

5 応答すると、なぜか百足からだった（フォロワーの電話番号を買い取った）。
6 フォロワーの電話からお前がと動揺するヒロインに応答せず、「昨日は怖がら
7 せちゃって、ごめん。SNSをブロックされちゃったから、電話かけるしかなく
8 て。何が悪かったかよく考えてみたんだ。聞いてくれる？」と言いながら家の
9 ドアを普通に開けて侵入してくる。

10 「君がお気に入りに入ってる小説とか漫画とか、もう一回全部読み直してみた
11 んだよ。フォロワーとの萌え語りとかも、全部。それでわかったんだ、俺はま
12 だ十分にdoiじゃなかった」

13 今度こそ俺が、ちゃんとしたdoiとして君を幸せにしてあげる。

14 なおも抵抗しようとするヒロインに、コマンド（暴力）を繰り出しながらのレ
15 イプ。

16 行為が終わると同時にヒロインは気絶。

17
18
19 【ヒロイン、昨日のダメージを消化しきれず自室で過ごしているところに、ネ
20 ットの友人（オフ会経験あり）から電話がかかってくる】
21

22 SE: 長めの着信音（電話のため、SNS通話とは別の音をお願いします）

23 SE: 衣擦れ

24 SE: 応答（ユシ）

25

26 【1 スピーカー通話】

27 百足「もしもーっ」

28

29 【ヒロイン、恐怖で携帯をベッドに投げる】

30

31 SE: 衣擦れ

32 SE: ベッドに携帯が当たる（ボスッ）

33

34

35

1 【9 音声が届く】

2 百足「あれ？ 何今の音。」

3 もしかして、スマホ投げちゃった？

4 まあ、ナナさんいつもスピーカーだし、大丈夫か」

5 百足「センチピードのアカウント全部ブロックされちゃったから、
6 大森さんの番号使って電話しちゃった」

7
8
9 【ヒロイン】「どうして大森さんの電話からあなたが出るの」

10
11 百足「大森さん、家族が重い病気で、生活が大変だったんだって。
12 三百万でお願いしたら、快く番号を売ってくれたよ」

13
14 百足「昨日は、半端な真似してごめんね。

15 ナナさんに嫌がられてから、俺いっぱい考えて、

16 ナナさんのお気に入りの小説とか漫画とか、
17 全部読み直してみたんだ」

18
19 百足「その後、ナナさんの眩きとか、

20 DMとかもみんな確認して、

21 やっと理解できた」

22
23 百足「ナナさんの大好きなDoeはさ、

24 Subの顔色なんて、伺うわけなかったんだ。

25 勝手に決めて、勝手に奪って、

26 無理やり気持ちよくして、愛情で窒息するくらい満たして、支配する。

27 そういう世界が良かったんだ」

28
29 SE:玄関の扉が勝手に開錠され

30 SE:扉が開く

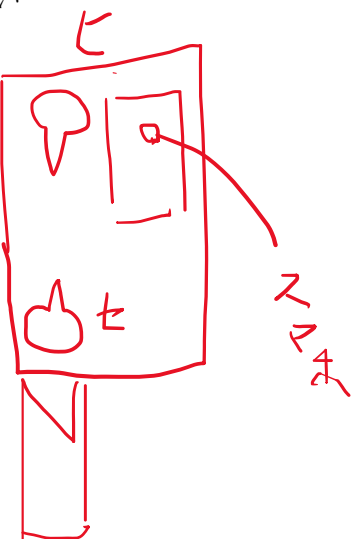
31 SE:衣擦れ（ヒロインの動揺）

32
33 【6（ヒロインが玄関の方を見ているため） 生声】

34 百足「だよ、ナナさん」

35 ※このセリフ11からも聞こえるように加工してください

36



1 SE:足音（フローリングに靴下 百足が近寄ってくる）

2 SE:通話オフ

3
4 【6→11】

5 百足「スマホ、ベッドに投げちゃったんだ。

6 ひどいなあ、俺と通話してるのに」

7
8
9
10 【ヒロイン、とっさにベッドに投げたスマホを取ろうとするが、百足に阻止さ
れる】

11 SE:衣擦れ

12 SE:ベッドの軋み

13
14 【7】

15 百足「あーつと残念。スマホはもう【投げる】使えません」

16
17 SE:スマホを壁にたたきつける音

18
19 【ヒロイン、大声を出そうとするが百足に阻止される】

20
21 SE:衣擦れ

22
23 【1】

24 百足「あ、こら！ しー！

25 大きい声出さない。

26 だめだよ、シー、シーっ」

27
28 【なおも叫ぼうとするヒロイン】

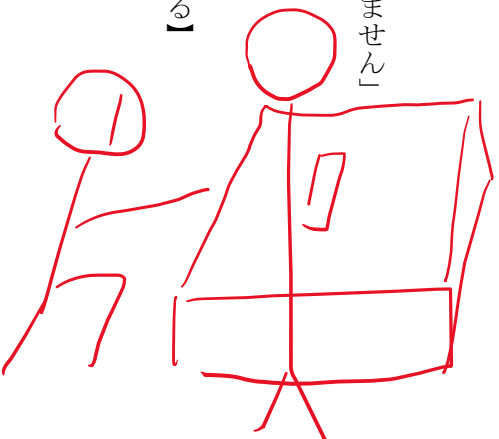
29
30 SE:揉み合っ

31
32 百足【苛立って】どうして俺の言うことが聞けないんだよ。

33 俺がDoM役なんだから、ちゃんと従わないと。

34 道具でも使って、声出せないようにしてほしいのかな？」

35
36 【諦めないヒロイン】



SE:揉み合い

SE:ピンタ

SE:全ストップ

【呆然と黙り込むヒロイン】

【1】

百足「ああ、やっと静かになった。

いい子、いい子、これが必要だったんだ。

オーケー、ちゃんと理解した」

百足「じゃあ、次は床にお座りだ。

ニール。できるでしょ、ほら、ニール！」

【暴力に心が折れたヒロインが、よろよろと座る】

SE:座る衣擦れ

百足「よくできました。

うんうん、やっぱりSub役はこうじゃないとね。

どう？ 無理やりお座りさせられて、

次の俺の言葉をビクビク待つの、どんな気持ち？

怖いよね、屈辱だよね。

【立てて】——こういうのがしたかったんだよね？

【笑って】もっと、もっと、俺が幸せにしてあげる」

【百足がズボンの前をくつろげる】

SE:ベルト外す

SE:ファスナー下す



【1】

百足「見て、ほら。リック（見る）。
すごいよね。」

ナナさんが可愛いから、俺のちんぽ、もうガチガチンなってんの。
昨日初めて直接会えた時から、ずっとヤバかった。
早くぶち込みたくてぶち込みたくて、おかしくなりそうだし。
まずはご挨拶してみよっか、俺のちんぽに。リック（舐める）」

【恐怖と嫌悪感で硬直するヒロイン】

百足「聞こえなかったかな？」

ほら、ちゃんと舐めて。リック、リックだって……
やれよ、おい！」

SE:ガシヤン（その辺にあったランプ殴り、割れる）

百足「あー、ナナさんのせいで手が血だらけだ。」

ちゃんと言うことが聞かないと、次はランプじゃなくて
ナナさんのこと殴るから。ね？　いうことが聞けるよね？」

【びびったヒロインが百足の陰茎に触れる】

SE:衣擦れ

百足「よーしよし。言うことが聞けたね。」

ゆっくりでいいよ、大丈夫。

ちゃんと言うことが聞けるなら、怒ったりしないから。
そう、そのまま、手で支えて、口を開けて……」

【ヒロインの口が陰茎に触れる】

SE:水音

SE:控えめなフェラ音

【1】

百足「ん、上手、上手。どう？ 君も気持ちいい？

ぬるぬるの舌で、俺のちんぼ一生懸命舐めて……可愛い」

【1】

百足「こうやって、喉まで咥えると、もっと気持ちよくなる

【言い終わると同時にヒロインの喉まで陰茎を押し込む】

SE:奥まで差し込む水音

【ヒロイン、苦しくてもがく】

SE:もがく衣擦れ(数秒であきらめる)

百足「あー……すっげ……

狭いノドが俺のことぎゅうぎゅう締めて、大歓迎だ。

涙目もいいね。本当に犯してるみたいだ。

苦しい？

そのまま、俺のこと可哀想な顔で見上げててよ」

SE:ゴーストン(低速)

【吐息十秒ほどお願いします】

百足「はぁ、やばい……

ナナさんが俺のこと見上げながら、

ちんちん咥えて、

一生懸命口オナホ頑張ってるのを見ると、

もう出ちまいそ……っ」

【余裕のない吐息十秒ほどお願いします】

百足「いっぱい出すから、全部受け止めて、

飲み干せよ……な？ 【射精】

SE:射精

【ヒロイン、善処はするが咽せて吐き出してしまふ】

SE:衣擦れ

SE:パタタツ（フローリングに液体が落ちる）（誇張表現）

【1】

百足「あー……全部吐き出しちゃった。悪い子だ。

ダメだろ、苦しくても頑張らないと。

俺はご褒美あげたいのに、これじゃお仕置きになっちゃう」

百足「クロール。そのまま、ベッドに四つん這いになって。

あ、おしりがこっちの方に向けて」

【ヒロイン、のろのろと従い、ベッドの上で四つん這いになる】

SE:衣擦れ

SE:ベッドの軋み

【12】

百足「ナナさんが悪いんだからね。

ナナさんが、ご主人様の言うことを聞けない、悪い子だから」

SE:スパンキング（布）

百足「痛い？ 軽く叩いただけなのに。

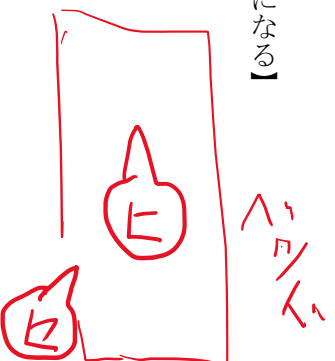
布（？）じゃ感触が良くないね、脱がしちゃうか。

動いたら、もっと強く叩くから。

じつとして。ステイ。」

【ヒロインの部屋着が捲り上げられる。ずり下げられる（リスナーの部屋着にフォーカスしたいので汎用性の高いSEでお願いします）】

SE:衣擦れ



【12】

百足「はは、可愛いおしり。
さっきの一発でもう赤くなっちゃった。
もうやめてほしい？　だーめ。
お仕置きなんだから、反省するまでやらないと」

百足「うーん……けど、このままだとやりにくいな。

そうだ、ナナさん俺の膝に乗っちゃってよ。

俺がベッドに座るから、

その膝にうつぶせで寝る感じで」

【百足、ベッドに座る】

SE:ベッドの軋み

百足「ほーら。ぐずぐずしないで早く。

でないとベルトで引っぱたくよ？」

【ヒロイン、従う】

SE:ベッドの軋み

SE:衣擦れ

【9】

百足「うん、この位置の方がやりやすいな。

俺の膝に、体重乗せていいよ。

こんなに柔らかくて可愛い女の子のおしり叩くなんて、

心が痛むけど。

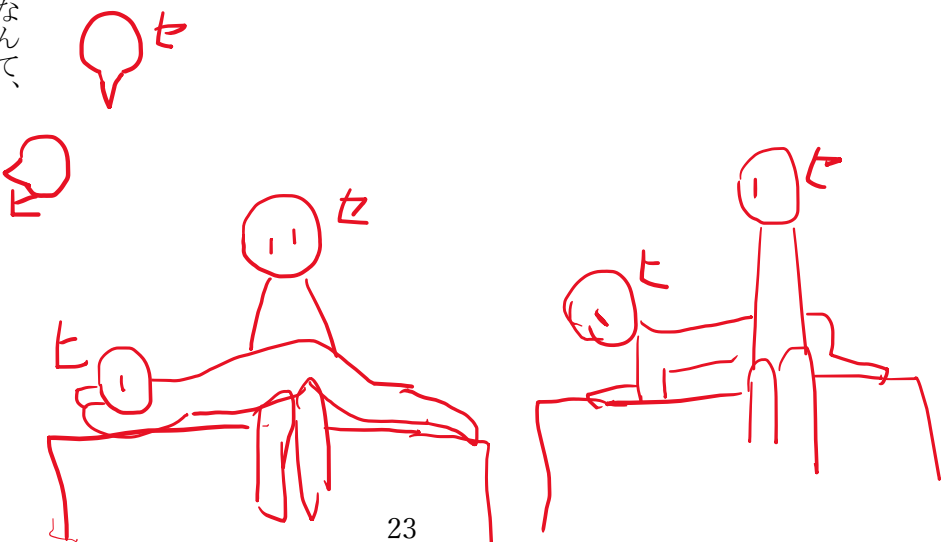
でも、ちゃんとナナさんがいい子になれるよう、

俺がDomとしてしっかり躡けてあげるからね」

百足「一発」

SE:スパンキング（以後生肌）

百足「二発」



SE:スペインキング

【9】

百足「こんな序盤から悲鳴あげて、どうするの。」

まだまだ行くから、頑張つて。

痛い？ 当たり前だよお仕置きなんだから。

ほら、三発目」

SE:スペインキング

百足「困ったな、泣かないでよ。」

君は Dom の言うことが聞けない、悪い Sub なんだから。

ちゃんと従順になれるよう躡けるのが、俺の役目だろ。

四発」

SE:スペインキング

百足「何発で終わるのかって？」

君が良い子になったら、おしまいにするよ。

ね？ だからほら、頑張つて。

五発」

SE:スペインキング

百足「悲鳴、ちっちゃくなってきたね。」

いっぱい泣いて、喉も疲れちゃったかな？ 可哀想に。

あーあ、おしりも もう真っ赤だ。

痛いよね？ じんじんするよね。

後でちゃんと冷やして、お薬も塗ってあげる。

六発」

SE:スペインキング

1 【6】

2 百足「あと何発で良い子になるかな。

3 うん？ もう反省したの？

4 じゃあ、何が悪かったか、自分で言える？」

6 【ヒロイン「精液を吐いたこと？」】

8 SE:衣擦れ

10 百足「そうだね。

11 俺の精液を吐いちゃったのは、反省しなきゃな。

12 でも、それだけじゃない」

14 SE:スパンキング

16 百足「君が悪いのはね、

17 さつきからずっと、俺のことを怖がってるところ。

18 俺がこんなに君のことを考えて、反省して、

19 ちゃんと君を理解して、愛し合いに来たのに」

21 SE:スパンキング

23 百足「君からは嫌だとか怖いとか、

24 そんな言葉しか聞かせてもらえてないよ。

25 俺はこんなに、君のことが大好きなのに。

26 愛するご主人様を悲しませたことについて、

27 ちゃんと謝罪してほしいな」

29 SE:スパンキング

31 【ヒロイン、とにかく止めてほしくて謝罪する】

33 百足「うんうん、素直に謝れたね」

34 良い子、良い子。

35 ナナさんはそうやって素直にしてる方が、

36 ずっと可愛いよーでも、まだ駄目」

SE:スパンキング

【9】

百足「俺を理解したなら、次に言うべきことは分かるね？」

ごめんなさいだけじゃ足りない。

ちゃんと俺のこと大好きです、って言って」

SE:スパンキング

【ヒロイン「大好きです」】

百足「うん、いい子。

誰のことが大好きなの？

ちゃんと全部言って？」

SE:スパンキング

【ヒロイン「センチさんのことが、大好きです」】

百足【満足して】うん、そうだね。そうだよね。

ナナさんは俺のことがだいじ好きなんだよね。よしよし。

よく言えました。頑張ったね」

SE:頭をなでる

百足「いっぱいお仕置きされて、疲れちゃったかな。

涙でドロドロになっちゃった、可哀想なお顔をこっちに見せて」

【百足がヒロインの体をひっくり返す】

【ヨイショっみたいな息遣いお願いします】

SE:衣擦れ



1 【1】

2 百足「ふふ……本当に可愛い……」

3 ナナさんが俺の腕の中で呼吸してるなんて、夢みたい。

4 俺ね、ナナさんが最初にリプライくれた日からずっと、

5 こうしてナナさんを抱きしめたいって思ってた」

6 【ヒロインの顔に軽いキス何度か】

7
8
9 百足「準備はもうできてるんだ。

10 あとはナナさんが揃えば完璧。

11 少し痛いかもしれないけど、

12 スタンガンはこの一回だけにするから、ちょっとだけ我慢して」

13
14 SE:衣擦れ(スタンガン取り出し)

15 SE:カチッ

16 SE:電撃

17
18 百足「一生大事にしてあげるから、ね」

19
20 【ヒロイン気絶でフェードアウト】

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

トラック5 何やつてもあかんか

ヒロインが目覚めると、そこは百足の家の一室（監禁用）だった。
絶望するヒロインに、百足が滔々と語り出す。
ネットで出会ってから、ヒロインのことが好きになったこと。
ヒロインの全てが知りたくて、調べ上げたこと。
あとはヒロインの持っている鍵垢の中だけがわからなかったけど、先日やつと入れてもらえて嬉しかったこと。
ヒロインの鍵垢侵入したあとフォローのアカウントを買取した百足は、ヒロインの過激な萌え語り（エロ妄想）を全て把握して、人権を蹂躪されるのが好みだったんだと確信。
この間みたいなの、遠慮がちなお誘いじゃ萎えちゃったよね。
あんなの、君の推しかぶりじゃなかった。
大丈夫、俺に任せて。今度は完璧にDom役をやってあげるよ。
ヒロインは誤解ですと弁明するが、女の子は恥ずかしがり屋だからそう言うしかないよねと流されてしまう。
最初は上手にできなくてもいいよ、俺と一緒に、本物のDom/Subになれるよ、練習しようねからの強制Dom/Subごっこに突入。
最初は抵抗を試みるヒロインだったが、できないとお仕置きで馬鞭でしばかれるので徐々に従順になっていく。
合間に百足が金持ちなこと、なんかうまいこと社会的に隠蔽されていたことを知り、逃げられないことを悟り絶望。

【監禁部屋、百足に抱っこされた状態で目がさめるヒロイン】

SE:キーボードカチャカチャ（百足がノートPCをいじっている）

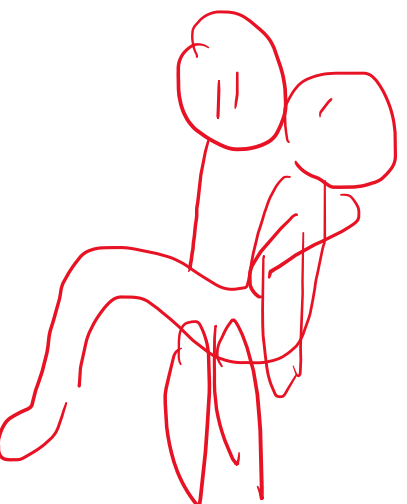
SE:衣擦れ

【8】

百足「あれ、もう少し寝てもよかったのに。」

おはよう、俺の膝、寝心地はどうだった？」

【ヒロイン「はいは……」】



【8】

百足「ここはね、俺と君だけが過ごす専用の部屋。

暴れるのはお勧めしないよ。

薬のせいで、しばらくまともに手足は動かせないし。

まあ、体が動いたとしても？

俺の方がデカいんだからどうにもならないよ」

【ヒロイン「すぐに警察が気づく」】

百足「警察？ 警察には、謎の失踪事件として

取り扱ってもらうことで話がついてるよ。

ネットニュースにもならない、小さな小さな事件だね」

百足「お金があると、このくらいの誤魔化しは簡単なんだ。

君の身内はそれなりに探すかもしれないけど、

いつかは折り合いを付けるだろう。

あまり長引くようなら、それどころじゃなくなるような事件を
起こすこともできるし」

【ヒロイン「でも、オフ会のフォロワーがおかしいって気づくはず」】

百足「オフ会？ オフ会があった事なんて、誰も知らないよ。

君が鍵垢に入れてくれたあと、

フォロワーのアカウントは全部俺が買い取ったから」

【ヒロイン「え？」】

百足「素性を調べたらみんな色んな事情があって、お金を欲しがってた。

欲しがるように、ちょっと細工した人もいるけど。

俺が誠心誠意交渉したら、

みんな快くアカウントを売り渡してくれたよ」

百足「昨日のスタジオも、俺が個人的に作ったやつだし。

オフ会に行くとか行かないとか言ってたフォロワーは、

全部俺が中の人でした」

【8】

百足「だから、ネットの友達も頼りにはできないよ。」

ナナさんの表アカウントも、さっき俺が入ってポストしといた。

だんだんペース落として、自然と飽きて消えたみたいにする予定」

百足「そうやって、君はだんだんと世間から忘れられていく。

可哀想なナナさん。

でも俺だけは、ずーっとナナさんと一緒にいてあげる。

【ヒロインの頬にキス】

SE:衣擦れ

【ヒロインに頬擦りをしながら】

百足「はぁ、本物だ。」

俺の妄想でも、音声だけでもない、生身のナナさん。

【ヒロインの首に顔を埋めて思いきり嗅ぐ】

良い匂い。

ナナさんの、生の匂いがする」

百足「出会ってからずっと、何年も悩んでたんだ。」

ナナさんのことを調べて、知って……

家も、家族も、仕事も、過去も、

なんだってわかってるのに、

どうやったら君に好きになってもらえるのか、

それがどうしてもわからなくて。

せつかく時間をかけて君と親しくなれたのに、

もしアプローチが失敗して、嫌われちゃったらと思うと、

何もできなくて」

【7 耳元囁き】

百足「鍵垢に入れてもらった時、

俺がどんなに嬉しかったか、わかる？

君の鍵アカウントの中、ひどい妄想ばかりだった。

強姦や監禁、尊厳凌辱のオンパレード。

あの、いつも優しくて冗談が好きなナナさんが、

こんな卑猥なことばっかり考えてたなんて【一瞬耳舐め】

1 【7】

2 百足「これだったら、俺でも簡単だ。」

3 監禁して犯して、俺だけのものにするなんて、

4 俺がずーっと考えてたことだし。

5 君の大好きな Dom/Sub だって、

6 俺なら上手にできるよ。

7 君が内緒でやってたいやらしい妄想、

8 全部本当にしちゃおう」

10 【ヒロイン「あれは架空の話だから楽しんでただけで」

12 【8 元の位置に戻る】

13 百足「誤魔化さなくていいよ。

14 ここには俺と君しかいないんだから。

15 なりきりプレイなんて、初めてするけど。

16 君がこれをごっこだなんて思わなくなるくらい、

17 俺が完璧に Dom をやってあげる。

18 君のことも、完璧な Sub にする。

19 セーフワードなんかいらなくらい、

20 完璧な主従になろう【立ち上がる】

22 【百足がデスクチェアからヒロインを抱いたまま立ち上がる】

24 SE:ギンッ

26 【ヒロイン「何するの？」】

28 百足「んー？ まずはベッドに移動かな。

29 それから先は……お楽しみ、ね？

30 よいしょ、っつと」

32 【百足、ヒロインを抱いたままベッドに向かい、ヒロインを横たえる】

34 SE:足音 (ベッドに向かう)

35 SE:ツサッ (ヒロインをベッドに横たえる)

1 【6】

2 百足「さーてと」

3
4 SE:ゴト (ビット脇にかけてあった馬鞭を持つ)

5
6 百足「これ、な〜んだ」

7
8 【百足、馬鞭で一度自分の手を軽く叩く】

9
10 SE:バン

11
12 百足「そう、馬鞭。

13 いわゆる普通の鞭より短くて、しなりがいいのが特徴だね。

14 皮が裂けるような怖いやつじゃないけど、

15 ちゃんと叩くとしつかり痛いよ。

16 これも君のために、特注で用意したんだ」

17
18 SE:怯える衣擦れ

19
20 百足「ああ、おしり叩かれた時のことを思い出して、
21 怖くなっちゃった？

22 大丈夫だよ、俺は優しい Dom だから、

23 君がいい子なら、無意味に叩いたりしない。

24 でも、悪い子にはお仕置きをするのも Dom だ。

25 ナナさんなら、ちゃんと分かるよね」

26
27 百足「じゃあ、早速命令だ。

28 ストリップ (脱げ)」

29
30 【ためらうヒロインの腕に、鞭を振り下ろす百足】

31
32 SE:鞭

33 SE:ビットの軋み

34
35
36 【百足、ヒロインの耳に口を近づけ】

【3 耳元】

百足「ただの脅しだと思った？
そんなに鞭の味を試してみたかったの？
仕方ない子だな。
痛い目に遭う方が好きなら、何回でも拒否ればいいけど……
ストリップ」

【ヒロイン、脱ぐ】

SE:衣擦れ（他より長め）

【1】

百足「いい子、いい子。
ゆっくりだけど、ちゃんと脱げたね。
でも——【叩く息】」

SE:鞭

SE:ベッドの軋み

百足「俺が脱げて言った時は、下着まで全部脱ぐんだ。
もう一度。ストリップ」

SE:衣擦れ

百足「よくできました。
恥ずかしいのに頑張って、とってもいい子。
まだ慣れてないのに、すごく偉いね。
でも良い子の君は、
裸を手で隠すのは悪いことだって、
ちゃんと分かってるよね？」

百足「ほら、俺に全部見せて。
胸の手をどかせて、足もちゃんと開くんのだ。
プレゼント」

1 【ヒロイン、指示された姿勢になる】

2

3 【1】

4 百足「は、すごいな。」

5 今、自分がどんな姿勢かわかる？

6 つんと立った乳首を晒して、

7 誘うみたいに脚を俺の方に開いてみせて」

8

9 SE:衣擦れ

10

11 百足「顔を真っ赤にして震えて……ああ、すっごくいい。

12 そのまま、脚を開いた姿勢でステイ」

13

14 【ヒロインの足の間に顔を埋める百足】

15

16 SE:衣擦れ

17 SE:水音

18

19 【ここからクンニの吐息まじりをお願いします】

20 百足「ああ、すごい。

21 ナナさんの味がする。

22 クリトリス、ぷっくりしてて……はあ、

23 声、我慢しないで。全部、俺に聞かせて」

24

25 【クンニ音10秒程度お願いします】

26

27 百足「濡れてきたね、気持ちいいんだ

28 いいよ、もっと気持ち良くなつて

29 口ではヤダヤダって言いながら、

30 ビクビク痙攣して、いっちゃえばいい。

31 カム、カム（イけ）」

32

33 【10秒ほどクンニ音お願いします】

34

35 【ヒロイン絶頂】

36

1 【1 股間から頭を離して】

2 百足「良くなりました。」

3 可愛いイキ声出してビクンビクンして、
4 偉かったね」

5
6 百足「中也ドロドロになってる。」

7 そろそろ、入れても大丈夫そうだ。
8 ワンちゃんみたいにお腹だして、ロール」
9

10 【いよいよ犯されることを察し、怯えるヒロイン】
11

12 SE: 鞭
13

14 百足「聞こえなかった？」

15 ご主人様に可愛がられるのを待つポーズ、して。
16 ロール」
17

18 SE: 衣擦れ (ヒロインベッドに横たわり)
19

20 【6 ヒロインの頭の位置が百足から遠ざかる】

21 百足「まったく、手のかかるSEだなあ。
22 いいさ、ちゃんと従順になるまで、丁寧に舐けてあげる」
23

24 SE: ギシッ (百足がベッドに乗り上げる)

25 SE: 衣擦れ (百足がズボンをくつろげる)

26
27 百足「そう。」

28 そのまま、おねだりしてみてよ。
29 そうだな……

30 『和也 (かずや) くんのカチガチおちんちん、
31 私のぐずぐずになったおまんこに入れて、
32 いっぱい気持ち良くしてください』って。
33 セイ (言え)」
34

35 【ヒロイン『かずや……?』】
36

【1】

百足「ああ、言ってなかったっけ。

俺の名前。

本名は百足和也（ももたりかずや）って言うの。

これからは和也くんって呼んでね。

でも【叩く息】」

SE: 鞭

百足「質問は今じゃなかったな。

君は命令されたんだから、従わないと。

ほら、なんて言うんだっけ？ セイ」

SE: 衣擦れ

【ヒロイン、おねだりをする】

百足「良くなりました」

【百足、ベッドでヒロインにのしかかる】

SE: 衣擦れ

SE: ベッドの軋み

百足「」褒美に、たくさん気持ち良くしてあげ——る【言い終わりに挿入】」

SE: 挿入音

SE: ヨーストン（中速）

【吐息のみ十秒ほどお願いします】

【1】

1 【ピストンしつた吐息まじりをお願いします】

2 百足「はぁ、締め付けてくる……」

3 濡れてるのに、すっごく狭くて、

4 搾り取られそうだ……っ

5 はぁ、すごいな、絶対そうだって、思ったけど

6 俺たちって、体の相性も最高……っ」

8 【吐息20秒ほどお願いします】

10 百足「はは、すごい声。

11 気持ちよくて、もう悲鳴みたいになってる。

12 いいよ、思いつき声出して

13 獣みたいによがって、

14 気持ちいいって教えてよ」

16 百足「ほら、顔を隠さない。

17 君は俺のSubなんだからさ、

18 俺を喜ばせなきや。ルック。俺の目を見て」

20 百足「そうそう、可愛いね。

21 涙も愛液もいっぱい垂れ流して、

22 気持ちよくなって」

24 【3 耳元囁き】

25 百足「あぁ……中がうねってきた……」

26 すごい、もうイキそうなんだ。

27 素直に気持ち良くなれて、いい子、いい子。

28 じゃあ、俺と一緒に、

29 思いつきりいっちゃおうか。カーム」

31 SE:♪ストン(高速)

33 【吐息20秒ほどお願いします】

35 【ヒロイン絶頂】

1 SE:射精

2 SE:ピストン終了

3
4 百足【満足ため息】

5 いっぱい、気持ち良くなれたね

6
7 SE:衣擦れ

8 SE:水音（結合を解く）

9 SE:ベッドぎし（ヒロインの横に寝転がる）

10
11
12 【7】

13 百足「いい子いい子。」

14 これからはずっと、こうやって俺がプレイして、舐けてあげるから。
15 頑張って本物のSEになろうね。

16 大好きだよ、俺のナナさん。

17 【ヒロインの頭にキス】
18
19
20

トラック6 夢が終わらない

数ヶ月後、すっかり監禁に馴染んだヒロイン。
百足が外出から帰ってくると、小走りで迎えに行くほど従順になってる。
調教が完了した二人のラブラブ褒め褒めエッチ。
幸せいつばいの百足が、お土産だよ、やっと完成したんだと特注首輪（カラ
ー）をヒロインの首にかける。

（※Dm/Sub 世界観では、首輪は結婚指輪みたいな永遠の関係の証）

ヒロインは改めて自分が逃げられないことを確信して涙を流すが、百足は泣く
ほど喜んでくれて嬉しい、と解釈。

これからもずっと、俺が君の完璧なご主人様をやってあげるからね♡ でエン
ズ。

【監禁部屋に、外出から戻ってくる百足】

SE:ドア開閉

SE:施錠

【9 出入り口からヒロインの方に声をかける】
百足「ただいま、今日は遅くなっちゃった」

SE:足音（ヒロインが百足に近づいてくる、タッタッタみたいなちよつと軽や
かなやつ）

【1 ヒロインが接近したため】

百足「ああ、そんなに急いでこなくて良いのに。
昨日も無理させちゃったんだから、
俺がベッドに行くまで、ゆっくり待ってても良いんだよ？」

【ヒロイン「寂しかったから」】

【デレデレ】

百足「そっかあ、寂しかったのかあ。
ごめんね、不安にさせちゃって。
はい、ぎゅー【ヒロインを抱きしめる】」

SE:衣擦れ

百足「落ち着いた？」

よしよし、良い子。

今日は何してたの？」

【ヒロイン「テレビを見ていた」】

百足「ああ、プリカイの再放送。

うちに録画してあるのに、好きだなあ」

【ヒロイン「放送中はSNSも盛り上がるし」】

百足「そっか、SNSが盛り上がるから、

それ眺めてたんだ。

フォロワーのみんな、元気してた？」

【ヒロイン「うん、コメントはできないけど見れてよかった」】

百足「コメントしないお約束、守れて偉かったね。

まあ、そもそもあのタブレットは文字入力できないようになってるんだ
けど。

最初の頃に壊しまくってた時期を思えば、大成長だ」

百足「ナナのこと忘れちゃうような薄情な人たちだけど、

それでも好きなんだね。

可哀想なナナ。

俺だけはずっと、ナナのこと大事にしてあげるからね」

【ヒロイン「ありがとう、和也くん」】

百足「お礼なんて良いのに。

……ずっとフローリングに立ってたら、

ナナの可愛い足が冷えちゃうな。

ベッドの方に行こう」

【ヒロイン、従う】

SE:足音

【ヒロイン、ベッドの近くに立つ】

【8 ヒロインを少し通り過ぎた位置でヒロインに向かって命令】
百足「じゃ、君はここでニール（お座り）」

【ヒロイン、床にぺたん座り】

SE:衣擦れ

【8↓9 自分だけベッドに向かう】

百足「よしよし、いい子だね。」

そのままステイ【ベッドに座る時のよいしょつみたいな息お願いしますす】

SE:ギシッ（百足だけベッドに座る）

SE:ドサッ（床にお土産の紙袋を置く）

【6 ヒロインを見下ろし】

百足「お腹、空いてない？」

何か食べたいものある？

それとも、お腹が空くまで遊ぶ？

この間買ったゲーム、

まだトロコンしてないでしょ」

百足「飽きちゃったんなら、新しいのを買おうか。」

今話題になってるやつ、面白そうだったよ。

それとも、映画がいい？

あとは……そうだ、

君が読んでた小説、続刊が出たみたいだけど」

【ヒロイン「それより和也くんがいい】



1
2 百足「まいったな……どこでそんな可愛い言い方覚えてきたの。
3 そうだね、せっかく二人でいるんだから、
4 二人で出来ることをしようか」
5

6 百足「脱いで。ストリップ」
7

8 SE:衣擦れ

9 SE:服が床に落ちる音(トサツ)
10

11 【6】
12

13 百足「いい子だ。
14
15

16 それじゃ、俺に君の可愛い体がちゃんと見えるように、一周ターンし
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

SE:足音(ちよつとだけ)

百足「よろしい。
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

もう乳首が硬くなってるみたいけど、
俺に裸を見られて、興奮してるの？
触って欲しい？」

【ヒロイン「うん」】
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

百足「素直におねだりできて、可愛いね。
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

でもだめだよ、まだ我慢して。
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

ちゃんという子が続けられたら、後で
思いつき気持ち良くしてあげるから、頑張つて。
ベッドに上がっていいよ。カム(おいで)」

【ヒロイン、ベッドに上がる】
31
32
33
34
35
36

SE:ぐんぐん

【1 向き合っている】
35
36

百足「俺の服、脱がせてよ。
35
36

1 ストリップ」

2
3 【ヒロイン、素直に従う】

4
5 SE:衣擦れ

6
7 百足「ふふ、体温が上がってる。

8 俺に触られるのが、待ちきれない？

9 可愛い可愛い俺のナナ、

10 お預けされて、もっと俺を欲しくなつてよ」

11
12 【百足の脱衣終了】

13
14 百足「よしよし、上手にできました。

15 じゃあ今度は、膝立ちのまま自分で触って見せてよ。

16 ナナはいい子だから、出来るよね」

17
18 【ヒロイン、自慰を始める】

19
20 百足「両手で胸を触って……そう。

21 まだ下は触らないで。

22 俺の視線感じながら、誘惑するみたいに、

23 ゆっくり揉んで」

24
25 百足「あは、切ない顔。

26 もう体は疼いてるのに、

27 胸しか触らせてもらえなくて、寂しいね。

28 乳首自分で弄って、腰ゆらすしかできないんだ」

29
30 百足「もう我慢できないの？

31 下、触りたい？

32 まだ何もされてないのに勃起して、敏感になっちゃったクリトリス、

33 今思いつき指で摘んだら、

34 どんなに気持ちいいだろうね」

35
36 百足「想像したら、もっと切なくなっちゃった？

1 欲しがりさんだなあ。
2 俺に恥ずかしい姿見られてるだけじゃ、足りない？
3 でも、自分で下なんか触っちゃったら、
4 もっと恥ずかしい格好になっちゃうよ。
5 それでもしたいの？」

7 【ヒロイン「はい」】

8
9 百足「素直でいい子。
10 じゃあご褒美だ。
11 片手で思いつき、クリトリス触っていいよ。
12 指は入れないように。ヨシ」

13
14 SE: ヨシ、と同タイミングくらいで一回拍手

15
16 SE: 水音 (自慰)

17
18 百足「あはは、腰がガクガクしてる。
19 声、もう我慢できないんだ。
20 いいよ、気持ち良くなってる音、俺にいっぱい聞かせて。
21 君の可愛い声も、やらしい音も全部聞きたい。
22 全部俺が命令したことだもんね。上手にできて偉い。
23 いい子、いい子。とってもいい子」

24
25 百足「え？ 中に指入りたい？
26 だゝめ。
27 そこまでしたら、気持ち良くなりすぎて
28 俺のこと忘れちゃうだろ？
29 ちゃんと俺のこと欲しい欲しいって思いながら、
30 気持ち良くなつてよ」

31
32 SE: ギンッ (百足がベッドの上で姿勢を変える)

33
34 【2→3 耳元囁き (難しかったらいきなり3で大丈夫です)】
35 百足「ほら、頑張れ♡頑張れ♡」
36

1 【3 耳元囁き】

2 百足「俺は優しいご主人様だから、
3 君が上手にイけるように手伝ってあげる。
4 耳から脳みそ気持ち良くされちゃって、
5 和也くんのおちんちんで、おまんこ可愛がってもらいたいよって泣き
6 ながら、
7 頑張ってクリオナしような♡」

8
9 【耳なめ30秒ほどお願いします】

10 【ヒロイン絶頂】

11
12 【3 囁き】

13 百足「あーあ、いっちゃった。
14 まだ俺がいいよって言ってないのに。
15 悪い子だなあ。
16 耳いじめられただけで、我慢できなくなっちゃって」

17
18 【ヒロイン「ごめんなさい」】

19
20 百足「ちゃんと謝れる子は好きだよ。
21 でも、言葉だけじゃ本当に反省したかわかんないな。
22 ご主人様のことほつとして、
23 自分だけ気持ち良くイっちゃった悪いナナちゃんは、
24 もつとごめんなさいしなきゃ」

25
26 【1 向き合う】

27 百足「ベッドに座って」

28
29 SE:ベッドギン(ヒロイン姿勢変更)

30
31 【6】

32 百足「そのまま、両脚を広げて。プレゼント」

33
34 SE:衣擦れ(ヒロイン動作)

35
36 百足「俺がそう言った時は、

1 自分で両脚を持つとく約束だったよな」

3 SE:衣擦れ

5 百足「はい、良くできました。

6 君のぐちゃぐちゃに濡れた性器が、よく見える」

8 百足「一回イッたのに、まだ足りなくて、
9 ずっとヒクヒクしてる。

10 愛液が出過ぎて、お尻まで垂れ流しだ。

11 ふーん、ご主人様を差し置いてのオナニー、
12 そんなに楽しかったんだ」

14 【ヒロイン「ごめんなさい、オナニーより和也くんの方が大好きです」】

16 百足「本当に？

17 オナニーより、俺の方が好き？

18 それじゃ、証明してみせて。

19 どうすればいいか、わかるよね

20 跨って、自分で挿入（命令形）」

22 【ヒロイン、百足の上にまたがる】

24 SE:ギンッ（ヒロイン姿勢変更）

25 SE:衣擦れ（ヒロイン移動）

26 SE:ギンッ（百足の上にまたがる）

28 SE:挿入

30 【1 快感を覚えながら】

31 百足「はぁ、濡れすぎで、すぐ入った。

32 そんなに俺のことが恋しかった？

33 ぬるぬるでぎゅうぎゅうで、

34 またすぐにイっちゃいそうだけど」

36 【ヒロイン「今度は頑張るから」】

1 百足「もうご主人様より先にイかない？
2 わかった、本当にできたら許してあげる。
3 でもズルはだめだ。
4 ちゃんと、自分も気持ち良くなるように動いて」
5
6

7 SE:♫ストン（中速）

8 百足「はあ、そう、上手……っ」
9

10 【吐息10秒程度お願いします】
11

12 百足「はは、声、いっぱい出るね。
13 そんなに俺のちんぽでオナニーするの、気持ちいい？
14 ごめん、冗談。
15 気持ちいいのは、俺とのセックスだよな。
16 俺も君の中、すっごい気持ちいい……っ」
17

18 【吐息10秒程度】
19

20 SE:♫ストン（低速）
21

22 百足「中、もっと締まってきた。
23 もういきそう？
24 気持ち良すぎて、動けなくなってた？
25 こら、休んで良いって言ってないだろ」
26

27 百足「イキそうでも、気持ち良すぎても、
28 ちゃんと動かないと。
29 もっと、もっと♡
30

31 【もっと、のタイミングで強く突いてる雰囲気をお願いします】」
32

33 SE:もっこ、のタイミングで水音強め（強く突いてる雰囲気）をお願いします
34

35 【ヒロイン、泣きが入ってくる】
36

百足「うめんごめん、

1 ナナは頑張って俺を気持ち良くしてるのに、
2 意地悪な言いすぎた。
3 お仕置きはおしまい、よく頑張りました」
4

5 SE:ピストン (高速)

6
7 【ピストンの吐息20秒ほどお願いします】

8 【ピストンの吐息まじりにお願いします】

9 百足「はは、もうだめ？ イキそう？

10 そっか、我慢できないか。

11 ちゃんと自分で言い出せて、良い子、良い子」
12

13 百足「いいよ、うん。許してあげる。

14 俺が下から、ガンガン突いてあげるから、

15 好きなだけイキな。カム(イけ)」
16

17 【10秒程度吐息お願いします】
18

19 【ヒロイン絶頂】
20

21 百足「はあ、中が、ビクビクして……っ

22 俺も、もう…… 【射精】」
23

24 SE:射精
25

26 【余韻のちよっただけ疲れた感じの呼吸を少し頂きたいです(秒数お任せしま
27 す)】
28

29 SE:衣擦れ (ヒロインがぐったりと百足の上に体を崩す)

30 SE:水音 (結合を解く)
31

32 百足「ふー……いっぱい気持ち良くなれて、頑張ったね。

33 疲れた？ 水とか、取ってこようか」
34

35 SE:ベッドギシ (ヒロインが百足の上からベッドに転がって移動)
36

1 【ヒロイン「大丈夫」】

2

3 【1 ベッド横並びで向き合い】

4 百足「そっか。じゃあこのまま、寝転んでゆっくり休もう。

5 もう眠たい？

6 さては俺がいない間、寝ないでアニメ見てSNSでファンアート漁ってた
7 な。

8 いいけどや」

9

10 百足「寝る前に、見せたいものがあるんだ。

11 もう少しだけ起きてて」

12

13 【ヒロイン「何？」】

14

15 SE:ギシッ（ベッドの上移動）

16 SE:ガサゴソ（ベッド下に置いてたお土産袋を漁る）

17 SE:ギシッ（戻ってくる）

18

19 【9 特注の首輪を見せびらかす】

20 百足「じゃーん、首輪」

21

22 百足「本当は監禁始めてからすぐに渡したかったんだけど、

23 大事な君の首に直接触れるものだし、

24 色々こだわって特注であれこれ決めたら、結構時間かかっちゃってさ」

25

26 SE:衣擦れ

27 SE:皮が擦れるギュツみたいな音（ヒロインに首輪を装着）

28

29 【1 満足げ】

30 百足「うん、思ったとおり。

31 君の首に、よく似合う」

32

33 【ヒロイン、様々な思いが去来し涙を流す】

34

35 【慰めるトーン】

36 百足「ああ、泣かないで。」

1 そうだ、一寝入りしたら鏡を見に行こう。
2 俺のデザイン、君も気に入ってくれるといいな。
3 最初の一本はサプライズにしたけど、
4 次からは君の意見も取り入れるよ」
5

6 百足「どんな首輪でも君にはきつとよく似合う【軽いキス】」
7

8 百足「それじゃあ、おやすみ。大好きだよ。」
9

10 君が変な世界観のエロ同人が好きでも、
11 過激なプレイのことばかり考えてても、
12 そう言うところも含めて全部好き。
13 一生かけて、全部叶えてあげるから」

14 百足「俺が用意した部屋の中で、ずっと、ずっと、
15 Dom/Sub としてようね【額にキス】」
16
17
18
19
20
21

終わり（全てが）